

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

体験を読み取る観点／学校法人山梨学院 山梨学院幼稚園（山梨県）

子どもたちの遊びは、どのようなきっかけから生まれていますか？

今回は、クモを見つけた子どもたちの事例です。クモを飼育し、観察を楽しみながら、クモの魅力を遊びに取り入れていく事例です。保育者は6つの観点をもって子どもたちを見取することで、子どもたちが創り上げていった遊びの過程から、「科学する心」の育ちを捉えています。



飛ばせるおもちゃ研究所／4歳児

本園では、幼児期に育みたい「科学する心」を「生活・遊びの中で生まれる興味・関心をきっかけに ①、驚き、不思議さ、感動を味わい ②、子どもたち自身が友達と共に ③、試行錯誤を繰り返す ④、のびのびと表現し ⑤、獲得・達成の喜びを味わい ⑥、夢中になって探究していく心」として捉えている。そこで、保育記録を、この①～⑥の観点で分析し、子どもの体験への理解を深める。

夢中になって探究していく心

生活・遊びの中で生まれる
興味・関心をきっかけに ①

クモを飼いたい

スパイダーマンになろう

のびのびと表現し ⑤

ぼくたちも糸を出す道具がほしい
作ってみよう

- クモを見つけた子どもが「クラスで飼いたい」と言い、虫カゴに入れて飼うことにした。①
- 毎日のようにクモを観察したり、図鑑で見たりしていた子どもたち。クモが糸を出すということ②にも興味をもった。ある子どもが「クモもスパイダーマンも糸を出すね」「スパイダーマンもクモだよ」とスパイダーマンの真似をして遊ぶようになった。⑤
- 男子たち数名は、スパイダーマンが腕から糸を出す姿に憧れたようで、その道具を作ろうと製作を始めた。⑤
- 子どもたちは、素材コーナーから見つけてきたラップの芯とゴムとタコ糸を使い、ゴムの伸縮する力を利用して、タコ糸をつけたゴムを遠くまで飛ばし始めた。③④

驚き、不思議さ、感動を
味わい ②

クモって本当に糸を出すんだね

友達と共に ③

一緒にやってみよう

試行錯誤を繰り返し ④

どうやったら飛ぶのかな？



いつでも好きなだけ使えるように置いてある身近な素材

- その後、子どもたちは、糸だけではなく、素材コーナーにあるいろいろな物を飛ばそうと試すようになった。③ ④
- Aちゃんは、一見、物を飛ばす道具になるとは思えないプラスチック製のスプーンの先に、ペットボトルのキャップを乗せて手を離すと、ペットボトルのキャップが飛ぶことを発見した。④ ⑥
- Bちゃんは、ペットボトルのキャップを床に置き、指で端の一か所をグッと押すと飛ぶことを発見した。④ ⑥
- 子どもたちは発見したことを友達と伝え合うようになった。③ ⑥
- 子どもたちは、「これ、お家にあったバネなんだけどね、ギュッと押して手を離すとピョンって飛ぶんだよ！」⑥「こんなに太いゴムを見つけたんだ！」と、家庭からもいろいろな素材を持ち寄り、遠くに飛ばすおもちゃ作りに励んでいた。⑤

スプーンでも飛ばせるよ

獲得・達成の喜びを味わい ⑥

バネも飛ばすよ



「スパイダーマンみたいに糸を出す道具を作りたい」



「ゴムって、よく伸びるよね」



「どれが、よく飛ぶかな？」

✦ 考察

- クモやスパイダーマンが「糸を出す（飛ばす）」様子に興味をもち、子どもたちは、糸を飛ばす道具を作りたいと考えて製作を始めた。
- その後、「飛ぶもの」への興味・関心が強くなった子どもたちは、タコ糸だけではなく、日常生活の中では一見「飛ぶ」イメージがないペットボトルのキャップも、一箇所を押したり、スプーンに乗せたりしながら、なんとかして飛ばそうとするようになった。
- 子どもたちの「飛ぶもの」の探究は園だけでは留まらず、家庭生活でも続いていた。飛ばすために使いそうな物があると園に持って来て、「みんな、見て！これ飛ばせるよ」と、見つけた物を友達に伝えたり、園の遊びの中で使ったりするようになっていった。保育者は、このような子どもたちの自主的な姿を認めたり見守ったりした。
- 記録を「科学する心」を捉える6つの観点で分析することにより、体験の内容を把握し、理解を深めることにつながった。